

# 年末恒例の「ビジュアルメディア EXPO 2018」が開催

神谷 直亮

話が旧年に戻るが、アドコム・メディアが主催した「ビジュアルメディア 2018」が、12月5日から7日までパシフィコ横浜で開催された。

「ますますつながるビジュアルメディア」をテーマに掲げた今回の展示会場は、「3D & VR ゾーン」「超臨場感コーナー」「VR 体験コーナー」「ビジュアルコンテンツコーナー」の4部から構成されていた。昨年まで人気を博していた最新の4K 3D 実写映像、3D CG VR 映像、3D 360度 VR 実写映像を上映する「StageVR360 シアター」は、残念ながら今回の会場には見当たらなかった。

まず、注目の「3D & VR ゾーン」には、三友、ビジュアル コミュニケーションズ、3DBiz 研究会、ステレオアイ、ソリッドレイ研究所、3D コンソーシアム / アレイズ、サークル、ギヤマンなどが出展していた。

三友は、中国のカンダオ・テクノロジー (Kandao Technology) 製のカメラ4機種、「Obsidian S」「Obsidian R」「Obsidian Go」「QooCam」を紹介して注目の的になった。「Obsidian S」は4K x 4K 3D VR 120fps、「Obsidian R」は8K x 8K 3D VR 30fpsの撮影ができるという。まだ開発の最終段階という「QooCam」については、「360度 2D VR または 180度 3D VR の撮影を実現する」と売り込んでいた。

三友のブースには、「OAKTAIL」と名付けられた世界初の縦置き85インチ裸眼

4K3D ディスプレイも展示され目を引いた。4視点のレンチキュラー方式を採用しているとのことで、人間の顔、象の鼻、キリンの首などが飛び出したりして臨場感にあふれていた。メーカー名を聞いて見たら「中国のニュートップ社製との回答であった。

ビジュアル コミュニケーションズは、360度 3D VR コンテンツの企画・撮影・制作・配信をワンストップで提供している。今回、同社のブースでは、「平成最後の東北祭り、青森、秋田、宮城、新潟」の3D VR を「Oculus Go」ヘッドマウントディスプレイ (HMD) で来場者に試遊を促していた。ブースの担当者によれば、この他に、ライブ 3D VR 「エルシステムジャパンフェローオーケストラによるベートーヴェン交響曲第五番 運命」、鉄道 3D VR 「JR 釧路本線 原生花園を走る」、特別 3D VR 「風化する記憶を語る継ぐ～震災遺構 南三陸町・高野会館」などのコンテンツも撮りためているという。

3DBiz 研究会のブースでは、「Oculus Rift」HMD を使って、「China Express」(4K 3D) と「Asian Spirits」(3D 360度) の視聴体験が行われていた。これら2本のコンテンツは、昨年「StageVR360 シアター」で上映されたものである。

ステレオアイは、社名の通りステレオ 3D 写真・映像の撮影や撮りためている 3D 画像の貸し出しなどを行っている。用途に

応じてサイド・バイ・サイド、アナグリフ (赤青メガネ用)、3D TV、3D プロジェクション用などに加工して納品ができるのが同社の特色という。今回ブースでは、最新作の 3D 180度 VR の「空中散歩」を試遊させていた。

「価値ある VR 創造企業」を旗印に掲げたソリッドレイ研究所は、VR 空間構築・体験ソフトウェア「オメガスペース H」と 360度カメラで撮影した空間を歩き回れる変換ソフトウェア「オメガ ウォークビュー」の PR に余念がなかった。ブースでは、360度の動画データを取得する際に使用したガーミン製「VIRB 360」カメラが紹介され、「Insta360」「Ricoh Theta V」と並ぶ3大製品と、PR に余念がなかった。性能を聞いて見たら「ワンクリックで 4K 30fps の 360度映像を撮影できる全天球カメラ」と答えていた。

3D コンソーシアムとアレイズ (Arayz) の共同ブースでは、VR/3D コンテンツ分野で特に関心を呼んでいる没入型オーディオの再生デモが行われた。インスタ 360 カメラで撮影した VR コンテンツや特製の2眼カメラで撮った 3D コンテンツを立体音響と共に楽しめるというので、音にうるさい専門家が押しかけていた。機器の構成をチェックしたら、中国のリーパイ (Lepy) 製パワーアンプやジェネレック製スピーカーが目についた。Lepy 製デジタルアンプ「LP-2024A」は、パソコンに接続して使える手ごろな価格のアンプとのことであった。

「御社の空撮課として安全性・信頼性・コスト削減を徹底的に追及したドローン運用に貢献します」という旗印を掲げたサークルは、今回、DJI 製の産業用ドローン「Matrice210」に Zenmuse Z30 空撮カメラを搭載して出展した。このシステムの特徴については、「上向きジンバルマウントで橋梁の底面などを垂直点検ができる。最大で 180倍ズームを使えるので離れた安全な場所から撮影ができる。また、



写真1 三友は、中国のカンダオ・テクノロジー製の「Obsidian S」カメラを出展して注目を集めた。



写真2 ビジュアル コミュニケーションズは、同社制作した「平成最後の東北祭り」の3D VR映像を来場者の試遊に供していた。



写真3 ステレオアイは、「空中散歩」というタイトルの3D 180度VRを試遊させ人気を得ていた。



写真4 FAシステムエンジニアリングは、執刀医向けに最適と言うスマートグラス方式の3D映像システムを売り込んでいた。



写真5 東京大学 大学院 広瀬・谷川・鳴海研究所は、触覚デバイスを用いて目の前に出現するVR物体を切りまくるという「VR+触覚」システムを紹介して関心を買った。

ZenmuseXT 赤外線カメラに付け替えれば詳細な温度データも取得できる」と語っていた。この他、同社は、「Phantom 4 Pro V2.0」「Matrice 600」「Inspire 2」「Cinestar 8」「Spreading Wings」などのドローンを所有しており、様々なリクエストに応える態勢が整っていると付け加えていた。

ギヤマンは、三友と競ってニュートップ社製裸眼レンチキュラー方式3Dディスプレイを出展して、人体の3D映像を再生して見せていた。提供できるディスプレイについては、「4K解像度対応で27、65、85インチの3種」と語っていた。裸眼3Dディスプレイは、解像度が落ちるという弱点が指摘されてきたが、4Kになってから驚くほど鮮明で違和感のない映像を再生できるようになった。また、横型に加えて縦型も出現したことで「サイネージ市場での普及に弾みがついてきた」と語っていた。

次いで、「超臨場感コーナー」で注目を集めたのは、FAシステムエンジニアリング、XRエンターテインメント、東京大学など6社・大学だ。

FAシステムエンジニアリング（愛媛県松山市）は、単眼2D内視鏡カメラ映像を3D映像にリアルタイムでコンバートし3Dで表示するシステムを紹介して脚光を浴びた。このシステムの特徴は、3Dコンバーターにスマートグラスを接続することで、スマートグラス上にリアルタイムに投影される3D映像を見ながら手術ができるように考案した点にある。3Dスマートグラスには、有機ELディスプレイを搭載したエプソンのモベリオが採用されていた。同社のブースには、3Dコンバーター

「NOVEL HD-3D-A」の実機と32インチモニター「FASE-3D32GLAS」も展示され、臨場感に満ちた3次元手術の映像を見ることができた。この他「スマートグラス画面配信システム」「3Dサイドバイサイドコーデック」「3D映像視聴用2Dプロジェクターシステム」も紹介されており来場者で賑わっていた。

XRエンターテインメントは、VTuberサービスと産業用XRサービスのPRに余念がなかった。VTuberプロジェクトの一环として紹介されたのは、バイリンガルVTuber「キミノミヤ&ココン、HANJYO! HANJYO!」で、狙いは「アニメを中心にした日本文化を伝えて世界中を繁盛させることにある」という。

東京大学 大学院 広瀬・谷川・鳴海研究所は、「PaCaPa」と名付けた触覚デバイスを用いて目の前に出現する仮想物体を切りまくるという面白いシステムを披露した。促されるままに「HTC VIVE」を装着して試遊を試みたら、チャンバラの稽古をしているような気分になった。何度か繰り返しているうちに切る角度によって手のひらに伝わる触覚が違うのが分かった。

「VR体験コーナー」は、このところすっかり人気を得ている「Lenovo Mirage Solo with Daydream」HMDを装着して様々なジャンルのVRコンテンツを体験できる貴重な場になっていた。上映さ

れたのは、既述の「風化する記憶を語る継ぐ〜震災遺構 南三陸町・高野会館」や「空中散歩」であった。また、視聴するコンテンツに即したVRミニセミナーを開設するという念の入れようであった。

さらに「ビジュアルコンテンツコーナー」が設けられており、3D、VR/AR、プロジェクションマッピング、インスタ映えのする映像などを休憩ムードで気楽に楽しめた。スポンサーになっていたのは、イベント企画、映像制作、ビデオアニメーション、プロジェクションマッピングなどを手掛けているナノグラフィカ（NANOGRAPHICA）である。

**Naoakira Kamiya**  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド4WD  
5名定員  
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載  
車高2.2m 以下（地下駐車場可）  
3.6 KVA NMG アイドリング運用  
水圧エコ・ボール4m 搭載  
強化サスペンション  
国内（100V）海外（240V）対応  
IPコントロール  
ハイビジョン映像伝送  
運転席からワンマンオペレーション

**設計・製造・衛星通信のことなら**  
**エーティコミュニケーションズ株式会社**  
TEL: 03-5772-9125